

やまぐちっ子学力向上だより

第 1 6 6 号 R8.6.8

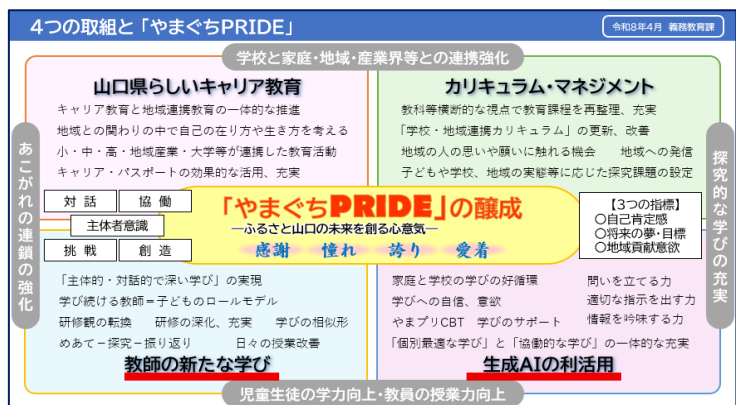
山口県教育庁義務教育課

「新たな学び」の実現に向けて

山口県教育委員会では、令和7年度より、「学校マネジメント力強化推進事業」に取り組んでいます。本事業では、子どもが問いをもち自ら学び続ける「探究的な学び」と、その学びを支える教師自身が問い・対話・省察を重ねながら学び続ける「子どもと教師の新たな学び」の実現をめざしています。こうした「子どもの学びと教師の学びは相似形」という考え方のもと、令和7年度は、中心校校長及び中堅教諭を対象とした研修と校内実践の往還を進めてきました。今年度は、この取組を全県で進めていきます。

5月15日（金）には、「『子どもと教師の新たな学び』に関する研修会」（兼第1回兼第1回小・中学校中心校校長連絡協議会）を開催しました。その内容から、各学校での校内研修や授業改善につながる視点を紹介します。

所管説明（義務教育課）より



- ・子どものロールモデルとしての教師
- ・研修観の転換

- ・「未来を創る力」を育成するための「探究的な学び」
- ・「探究のパートナー」としての生成AIの利活用

★中心校への研修視察について★

- ・「よろこそ校内研修」の仕組みで、中心校から各校へ案内が行われます。
 - ・各校1名分（年間を通じて1回限り）の旅費が別途内示となります。
- ※詳しくは通知文にて御確認ください。積極的な御参加をお願いします。

講義より（国立大学法人福井大学大学院連合教職開発研究科特命教授 清川 亨 様）



NITSフェローである清川教授から、「研修観の転換～NITSフェローのプログラムより～」というテーマで、教師自身が「学びの当事者」となることの重要性についてお話いただきました。

特に印象的だったのは、「子どもに求める学びを、教師自身も実践する」という視点です。「集い、問い、迷い、発見する」というコンセプトをもとにした実践から、教師自身が問いをもち、対話し、省察しながら学び続ける姿が、子どものロールモデルと

なり、子どもの学びの充実にもつながっていくことが示されました。

また、次のようなメッセージが共有されました。

★「時代を見据えること」が重要。求められる資質・能力が変化する中で、教育が変わっていくことは必然。教師自身も学び続けることが重要。

Society5.0の時代に Society3.0の教育？

★他校の具体的な実践をそのまま取り入れるのではなく、抽象化して「概念」を捉え、自校の実態に合わせて考え直すことが大切。

★研修は、経験を伝え合って終わるのではなく、実践→省察→次の実践へとつなげる。

★組織でめざすことを、誰もが（校長も教員も子どもも）同じ言葉で語れることが重要。

子どもに「問いをもとう」「対話しよう」「振り返ろう」と求めるのであれば、教師自身も同じように学び続ける存在であることが大切であり、「子どもの学びと教師の学びは相似形」であることを改めて考えさせられました。

協議より

「『新たな学び』の実現に向けた指標について」をテーマに、「どのような指標であれば、教師が『新たな学び』に向かう姿を表すことができるだろうか」という視点から、教職員の指標案をもとに協議しました。

児童生徒（全学調及び10月確認問題質問調査の項目）

- ・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。
- ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。
- ・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

教職員（中心校にアンケート調査）

- ・教育活動に関する自分の目標を立て、自分で考え、自分から取り組むことができますか。
- ・目標の達成に向けて、対話を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。
- ・目標の達成に向けた取組を見直し、次の行動につなげることができていますか。

案

相似形

協議では、「指標は単なるチェックではなく、成長のサイクルに生かすことが重要」という考えのもと、参加した中堅教諭の間で、次のような意見が共有されました。

○学びについて、「課題設定→対話→省察→改善」の循環（スパイラル）として捉え、継続的に見直していくことが重要である。

○教師は、伴走者、ロールモデルとして、子どもと同様に学び続ける姿を示していくことが求められる。

○指標には、“課題”“やりたいこと”など、前向きで自分事になる言葉が入るとよい。

○個人の探究と、組織としての探究の、両立が重要である。

○心理的安全性や意欲など、内面的な側面の把握ができるものがよい。

これらの指標については、中心校におけるアンケート調査の項目とする予定ですが、参考として全ての学校にもお知らせします。中心校への研修視察と合わせ、各校における校内研修や授業改善の充実、「子どもと教師の新たな学び」の実現につなげていただけたらと思います。